

2026年7月2日

**国立アジア美術館、国文学研究資料館との協定を更新
日本古典籍へのデジタルアクセスを拡充**

日本語版オンライン目録も公開、新たなオンラインリソースにより
アクセスと研究の両面で国際協力を推進



画像:『狂歌茶器財画像集』 / スミソニアン国立アジア美術館,
ゲルハルト・ブルヴェラー・コレクション, FSC-GR-780.710
<https://kokusho.nijl.ac.jp/biblio/100447106/12?ln=ja>

スミソニアン国立アジア美術館（以下「国立アジア美術館」）は、国文学研究資料館（以下「国文研」）との間で締結している協定（MOU）を更新しました。これは、日本の文学遺産に関する研究の推進、資料へのアクセス向上及びそれらへの理解を深めることを目的とした両機関の協力関係を継続するものです。

また、今回の協定更新にあわせて、両機関の協力のもと新たなデジタルリソースを公開しました。国立アジア美術館が所蔵するプルヴェラー・コレクションの貴重な日本古典籍を対象とした、オンラインで検索・閲覧できる目録の日本語版です。

国立アジア美術館プルヴェラー・コレクション: <https://pulverer.si.edu/>



Smithsonian

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国文学研究資料館**Media only:**
asia.si.edu/pressJuwon Song
songj2@si.edu

この新たなリソースにより、特に日本文学及び美術史分野の研究者による、プルヴェラー・コレクションを活用した比較研究が可能となります。同コレクションはこれまでも網羅的にデジタル化されていましたが、利用できる目録は英語版のみであったため、研究者や学生にとって十分に活用しづらい面がありました。

今回の日本語版構築にあたり、国立アジア美術館から画像データ及びメタデータが提供され、国文研の「国書データベース」に統合されました。「国書データベース」は、日本文学研究に関する国際的な情報基盤の一つとして広く利用されています。

両機関の協力関係は、2020年に初めて協定を締結したことに始まります。今回の協定更新は、この協力関係をさらに発展させるものです。

国立アジア美術館館長のチェース・F・ロビンソン氏は次のように述べています。

「今回の成果は、デジタル化を通じて文化遺産への国際的なアクセスを拡大すること、そして国境や分野の枠を越えた対話と協力を促進することという、当館の使命における二つの重要な側面を体現するものです。このような知識共有の機会是我们にとって原動力であり、国文研との連携の第二幕を迎え、さらなる共同プロジェクトの実現を楽しみにしています。」

プルヴェラー・コレクションは、ドイツの著名な医学研究者であるゲルハルト・プルヴェラー博士とローズマリー夫人が30年にわたり収集した、江戸時代（1615～1868年）及びそれ以降の希少かつ保存状態の優れた絵本（ここでいう「絵本」とは、子供向けの絵本だけでなく、絵が多く入っている書物一般を指します）のコレクションです。同コレクションは、17世紀初頭から1970年代までの資料900点以上、約2,200冊から構成されており、国立アジア美術館は2007年にコレクション全体を収蔵しました。

国立アジア美術館日本美術担当学芸員兼学芸担当アソシエート・ディレクターのフランク・フェルテンス氏は次のように述べています。

「プルヴェラー・コレクションは、日本国外に所在する日本の絵本（絵入り本）コレクションの中でも、最も優れた包括的コレクションの一つとして評価されています。日本語で利用できるデジタルリソースが公開されたことで、日本の研究者や学生をはじめとする多様な利用者が詳細な一次資料へ直接アクセスできるようになり、新たな研究や探究の可能性を切り開くことにつながるでしょう。」

今回の協定更新は、国立アジア美術館が推進する国際戦略「Japan in Focus」の一環でもあります。この戦略では、日本の研究者や専門家との緊密な協力のもと、日本の美術や文化の研究、保存、発信において主導的役割を果たすことを目指しています。今回の更新は、グローバルパートナーとの協力を通じてデジタルリソースやデジタル体験の充実を目指す国立アジア美術館の戦略計画を推進するものでもあります。今後、連携の新たな段階において、国文研はデジタル化やデータベース構築に関する知見を提供し、国立アジア美術館のコレクションへのアクセスや活用のさらなる拡大に貢献していきます。

国立アジア美術館の戦略計画: <https://asia.si.edu/about/mission-vision/strategic-plan/>

国文研基盤データセンター長の山本和明氏は次のように述べています。

「国立アジア美術館との連携は、資料やコレクションだけでなく、それ以上の価値を機関同士が共有できることを示しています。専門的な知見や研究基盤を共有することで、分野や言語の壁を越え、文化をつなぎ、世界中で新たな研究機会を生み出すリソースやプロジェクトを構築することができます。」

この日本語版リソースは、国文研の「国書データベース」で利用できます。



「国書データベース」画像一覧: <https://kokusho.nijl.ac.jp/page/list-NMAA.html>



Smithsonian



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国文学研究資料館

Media only:
asia.si.edu/press
PressAsia@si.edu

こうした国際的な連携の拡大と強化は、アメリカ合衆国建国 250 周年を記念する国立アジア美術館の重要な取組の一つでもあります。

国立アジア美術館「Our Shared Future: 250」: <https://asia.si.edu/whats-on/events/celebrations/our-shared-future-250/>

【協力】

国立アジア美術館の日本美術プログラムは、三菱商事株式会社の支援を受けて実施されています。

【スミソニアン国立アジア美術館について】

スミソニアン国立アジア美術館は、アメリカ初の国立美術館であると同時に、初のアジア美術館として 1923 年に開館しました。現在では、古代から現代に至る作品を含む世界有数のアジア美術コレクションを所蔵・管理しています。また、19 世紀から 20 世紀初頭のアメリカ美術に関する重要なコレクションも所蔵しています。

国立アジア美術館コレクション: <https://asia.si.edu/explore-art-culture/collections/>

収集、保存、展覧会、教育普及活動、及び研究にわたる幅広い活動を通じて、国立アジア美術館はアジアの芸術・文化と、それらとアメリカとの過去から現在にわたる相互関係への理解を深めるための、国内外における重要な学術・文化資源としての役割を担っています。また、多様性に富むアジアの芸術・文化を紹介することにより、探究心、創造性、そして相互尊重という基本的な価値を体現することを目指しています。世界の繋がりがますます深まる現代社会において、国立アジア美術館は異文化理解を個人及び社会全体の幸福に不可欠な要素であると考えています。

国立アジア美術館はワシントン D.C. のナショナル・モールに位置し、12 月 25 日を除く年間 364 日、無料で開館しています。スミソニアン協会は世界最大規模の博物館・教育・研究機関群であり、毎年数百万人の来館者を迎えています。国立アジア美術館の詳細については、公式ウェブサイトをご覧ください。

国立アジア美術館ウェブサイト: <https://asia.si.edu/>

###

【国文学研究資料館について】

国文学研究資料館は、国内外各地の日本文学とその関連資料を大規模に集積し、日本文学をはじめとする様々な分野の研究者の利用に供するとともに、それらに基づく先進的な共同研究を推進する日本文学の基盤的な総合研究機関です。

国文学研究資料館ウェブサイト: <https://www.nijl.ac.jp/>

【国立アジア美術館 報道関係者向け情報】

Media website: <https://asia.si.edu/about/press/>
Media contact: Juwon Song
songj2@si.edu

【本件に関するお問い合わせ先】

国文学研究資料館管理部総務課広報室
メールアドレス: jigyou@nijl.ac.jp
電話番号: 050-5533-2984

※本プレスリリースは、国立アジア美術館の了承を得て、同館が発表した英文プレスリリースをもとに、国文学研究資料館が日本語版として作成したものです。

英文プレスリリース: <https://asia.si.edu/about/press/releases/nijl-mou-renewal-2026/>



Smithsonian



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国文学研究資料館

Media only:
asia.si.edu/press
PressAsia@si.edu